

スポーツ振興事業助成金「競技大会助成事業」実施報告

助成事業の実施結果及び助成金の使途に関する情報(令和7年度・2025年度)

○助成対象事業

競技大会名 「FISジャンプワールドカップ2026札幌大会」
期 日 令和8年1月17日(土)～18日(日) (男子個人戦2戦)
会 場 札幌市 大倉山ジャンプ競技場

種 目: 1月17日(土) ラージヒル(HS137) 個人戦(競技開始 15:15 ナイトゲーム)
1月18日(日) ラージヒル(HS137) 個人戦(予選 9:30 競技開始11:00)

参加選手数: 58名 外国選手 58名(その他海外役員・各国コーチ数 69名)
日本選手 10名(オースター6名+開催国枠4名) 参加国数20か国

(令和7年度のスポーツ振興助成金「競技大会助成事業」は、1980年より札幌で開催している男子ジャンプワールドカップ札幌大会の開催にご支援ご協力をお願いし実施した。)

1980年から始まった国際スキー・スノーボード連盟主催のジャンプワールドカップは、世界トップクラスの選手が多数参戦し、年間王者を決定するジャンプ大会であり、札幌において40年以上の歴史を重ね、継続的に開催してきた国際競技大会である。

今季は2戦を開催、1月15日、日本選手を含む選手団が札幌に到着、オリンピック開催年の今季は多数の外国選手が来札、開催国枠の日本選手10名を含む68名がエントリーした。1月16日(金)、公式練習及び予選ラウンドを行い翌17日(土)に予選通過した50名による第1戦を実施した。北京五輪金メダリストの小林陵侑選手を擁する日本ジャンプチームは、世界各国の選手と熱戦を繰り広げた。

1月17日第1戦目、曇り空追い風が吹く大倉山では、予選をトップで通過した小林陵侑選手を始め日本選手が本戦「ナイターゲーム」でホームの強さを発揮、今季調子を上げている二階堂 蓮選手が3位、中村直幹選手が自己最高の2位に入る活躍を見せて表彰台に上った。予選トップの小林選手は、1本目10位と出遅れたが、2本目130mの飛距離で5位に入った。優勝は今シーズン安定したジャンプを展開しているスロベニア:プレブツ・ドメン選手が今季8勝目の勝利を飾った。翌1月18日(日)は、エントリー選手68名が予選に出場、大倉山特有の安定しない風の状況下、ランキング上位を狙う日本選手の中で、常に話題となっているベテラン葛西紀明選手は、予選を通過することが出来ず残念な結果となったが、多数の報道と観客の注目を集めていた。前日5位の小林陵侑選手が2本のジャンプをまとめ、2位入賞を果たし今季のオリンピックでの活躍に期待が膨らんだ。前日表彰台に上った二階堂選手は6位、中村選手は13位と連日の表彰台とはならなかった。

大会は、大倉山特有の風が吹くコンディションながら、順調に競技を進行することが出来、また、観戦に訪れた多くの観客は、日本選手の活躍に大いに声援を送っていた。

シーズンを通して上位に食い込める選手が台頭してきたことは、選手強化が実を結び、日本チームとして大きな収穫であり、今季オリンピックで活躍できる実力を示してくれたことは、報道関係者並びに来場者を大いに盛り上げることとなった。

本大会も選手・競技役員・大会役員ほか来場された方のご協力により、無事開催出来たことを報告し、関係各位に深く感謝を申し上げたい。

【助成金の使途】

下記の助成対象経費の一部に充当 競技会開催/助成金額 7,490,000 円
借料及び損料(会場設営機材等)、雑役務費(競技場整備・警備等)

FIS Ski Jumping World Cup
2026 Sapporo
Fri 16 January 2026



FIS Ski Jumping World Cup
2026 Sapporo
Sat 17.January.2026



FIS Ski Jumping World Cup
2026 Sapporo
Sun.18.January.2026

